

 **新興プラントック**

**第105期 報告書**

平成20年4月1日～平成21年3月31日



新興プラントック株式会社

証券コード：6379

## 株主の皆様へ



代表取締役会長  
藤井清喜  
Seiki Fujii

代表取締役社長  
吉川善治  
Yoshiharu Yoshikawa

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに第105期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

第105回定時株主総会後の取締役会において、取締役社長 藤井清喜が取締役会長に、取締役 吉川善治が取締役社長に選任され就任いたしました。今後はこの新体制のもと、更なる社業の発展をめざし、より一層努力してまいります所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### Contents

株主の皆様へ	1
トピックス	5
業績ハイライト(連結)	6
連結財務諸表	7
単体財務諸表	9
事業のご紹介	10
中期計画のご説明	11
会社概要	13
株式の状況	14

## 平成21年3月期の事業環境

原油や原材料価格の高騰、米国のサブプライム問題に端を発した金融不安の広がりを背景に、米国大手証券会社の経営破綻による世界経済の混乱が一気に広がり、国内における実体経済も急速に減速し、企業収益の悪化、株値の急落、個人消費の伸び悩みなど、景気後退が一段と深刻化しました。

このような経済情勢の中、当社グループの主要顧客である石油・石油化学業界では、プラントの老朽化や効率化対策、操業の安定化、信頼性・安全性の向上のためのメンテナンス需要は、前年度に引き続きおおむね堅調に推移しました。しかしながら、一昨年末からの記録的な原油価格の乱高下に加え、景気後退に伴う石油・石化製品の需要減少等の影響により、後半に至り、プラントの停止や稼働率の急速な低下、投資計画の延期・凍結のほか、メンテナンス費用に対する見直し姿勢が強まり、当社グループの業績に与える影響も不透明感がより一層増す中で推移しました。

## 平成21年3月期の連結業績の概要

当社グループは平成19年度を初年度として策定した第3次中期計画に沿って、エンジニアリング力のあるメンテナンス会社として付加価値の高いメンテナンスサービスの提供、顧客ニーズの多様化・高度化に対応した的確な営業戦略の立案など、着実な施策の実行に努めた結果、受注高（エンジニアリング業）は前期比12.7%増の1,104億8千2百万円となり、完成工事高は前期比12.1%増の1,109億2千3百万円となりました。

損益面は、工事量の増加に伴う稼働率の向上、採算を重視した案件の獲得、ミス・不適合・手戻り等の原価上昇要因の発生防止などのプロジェクト管理および収益管理の徹底等に継続的に取り組みましたが、メンテナンス関連工事の収益性の低下や相対的に利益率の低い大型の新規設備工事の完工等の結果、経常利益は前期比0.8%減の103億5千万円、当期純利益は前期比8.5%減の53億8千万円となりました。

## 完成工事高の内訳

プラントの安定稼働を目的とした一般補修や動機械の日常点検等を行う日常保全工事では、顧客のメンテナンス費用の見直しに伴い減少したものの、プラントを一定期間全面的に停止して行われる定期修理工事では工事量は若干増加しました。プラントの能力増強や生産性向上のために行う改造・改修工事では、設備の経年劣化に伴うエチレン装置の分解炉の補修やタンク補修、装置の安全対策工事等があり、大幅に増加しました。また、新規設備工事についても、製紙工場の工場新設、ポリマー製造プラント、トナー工場のプラント建設等の大型工事の他、製油所高度化プロジェクト、石油分野の環境対策プラント、溶剤脱れき装置等の完工により、大幅に増加しました。

工事種類別完成工事高内訳（その他の事業分を除く）

（単位：百万円）

完成工事高	第104期 (平成20年3月期)	第105期 (平成21年3月期)	前期比 (%)
エンジニアリング業	98,658	110,694	12.2
日常保全工事	23,814	22,073	△ 7.3
定期修理工事	38,544	40,817	5.9
改造・改修工事	20,112	26,155	30.0
新規設備工事	16,186	21,648	33.7

なお、事業セグメント別の完成工事高の内訳は次のとおりとなっております。

事業セグメント別

（単位：百万円）

完成工事高	第104期 (平成20年3月期)	第105期 (平成21年3月期)	前期比 (%)
エンジニアリング業	98,658	110,694	12.2
石油・石油化学関係	81,278	81,880	0.7
一般工業関係	16,439	28,700	74.6
環境その他	939	113	△ 87.9
その他の事業	267	228	△ 14.5
合計	98,925	110,923	12.1

## 第106期（平成22年3月期）の事業環境および業績見通し

世界的な金融不安により、市場環境の悪化および先行きの景況感から消費者マインドも低迷し、一層厳しさを増すものと思われます。当社グループの主要顧客であります石油・石油化学業界につきましても、国内の石油製品や世界的な石油化学製品の需要減少により、事業環境も厳しく、設備の過剰感もあり、メンテナンス費用および設備投資の減少が懸念されます。

このような中、当社グループとしましては、本年度が第3次中期計画の最終年度にあたり、見直しを行った経営目標の達成と企業価値の向上に向け、事業および収益基盤の維持と一層の強化を図ってまいります。さらに、経営ビジョンである「確かな品質と安全の確保」「現場改革の推進」「人材の強化・育成」「内部統制システムの確実な運用」の実効をあげるための施策に継続的に取り組むとともに、エンジニアリング力のあるメンテナンス会社という当社グループの特徴を活かし、付加価値の高いメンテナンスサービスを提供することを基本に据え、顧客ニーズの多様化・高度化に対応した営業戦略を実践していくことにより、受注と収益の確保に引き続き注力してまいります。

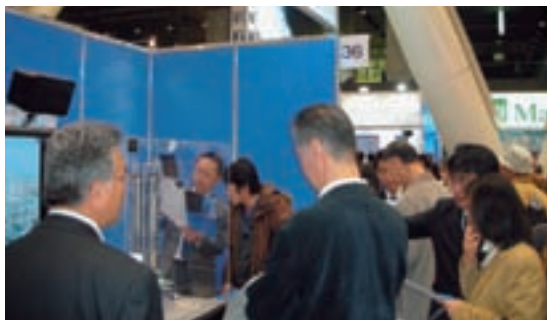
### 平成22年3月期の業績見通し（連結）

	中間期			通 期			(単位：百万円)
	H20.9実績	H21.9予想	増減率	H21.3実績	H22.3予想	増減率	
受 注 高	58,125	52,500	△9.7%	110,482	100,000	△9.5%	
完 成 工 事 高	58,679	52,500	△10.5%	110,923	100,000	△9.8%	
経 常 利 益	5,307	4,360	△17.8%	10,350	7,630	△26.3%	
当 期 純 利 益	2,912	2,400	△17.6%	5,380	4,200	△21.9%	

# トピックス

## 第11回ノムラ資産管理フェアに出展

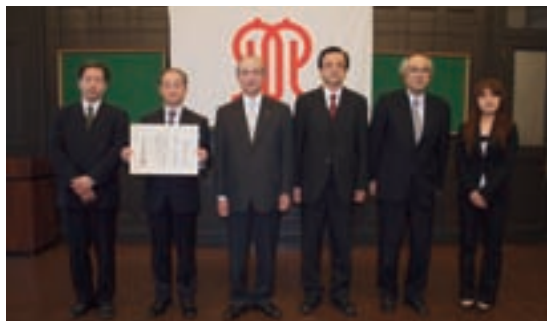
平成20年12月、東京国際フォーラムにて開催された「第11回ノムラ資産管理フェア」に出展しました。ノムラ資産管理フェアは野村證券(株)が主催する個人投資家向けの日本最大級のマネーイベントであり、今回は81社の上場企業が出展していました。このイベントは著名人などによる講演会と上場企業のIRブースなどがある展示会の2つで構成されています。会期中の来場者数は、約2万6千人であり、一昨年の約2万1千人を大幅に上回りました。昨今のサブプライムローンを発端とする金融の大混乱により、株式市場全体で株価がかなり下落しましたが、この下落により、安い金額で投資できるという思惑を持つ個人投資家も多く、来場者の増加にも繋がっているようです。



## 第6回かながわ新エネルギー賞を受賞

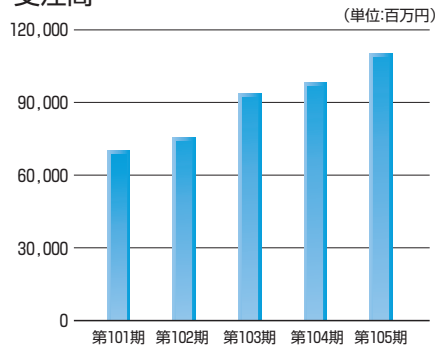
平成21年3月、神奈川県内において、太陽光発電、風力発電、バイオマスエネルギーなどの新エネルギーに関して優れた取り組みをした個人や企業・市民団体などに対して表彰される「かながわ新エネルギー賞」を受賞しました。受賞の対象となった技術は、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）と共同研究事業として進めてきた「鶏糞ガス化発電システム」です。

「鶏糞ガス化発電システム」は、採卵養鶏場から発生する乾燥鶏糞を熱分解し、可燃性ガスに改質して、バイオディーゼルオイル（植物性の油分を原料とする燃料）とともにエンジンに投入し発電するシステムです。また同時に熱エネルギーを鶏糞乾燥装置に供給利用するものです。今回の受賞は、当社が進める環境事業が社会に認められたものと受け止めています。

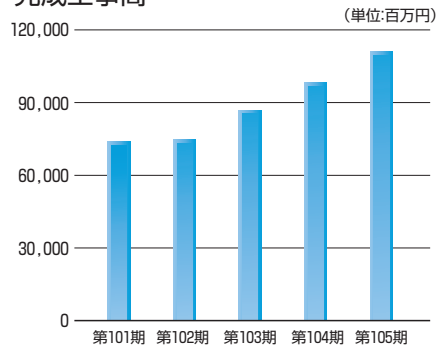


# 業績ハイライト (連結)

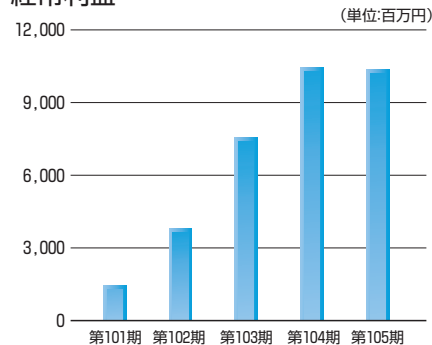
## 受注高



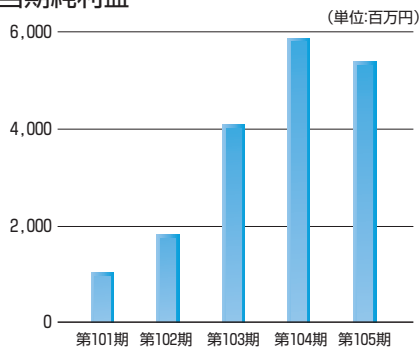
## 完成工事高



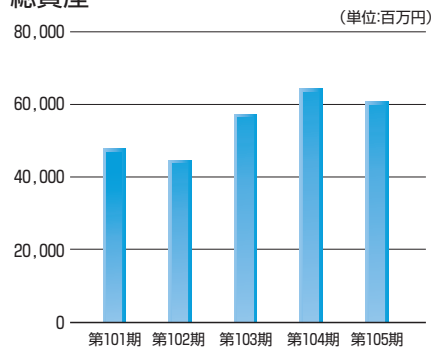
## 経常利益



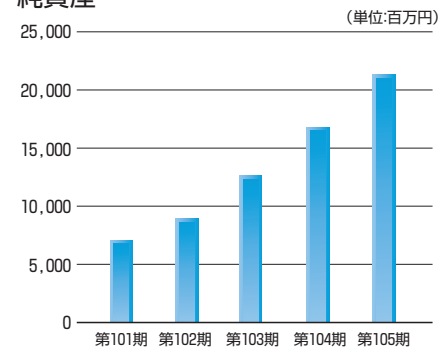
## 当期純利益



## 総資産



## 純資産



(単位:百万円)

	第101期 (平成17年3月期)	第102期 (平成18年3月期)	第103期 (平成19年3月期)	第104期 (平成20年3月期)	第105期 (平成21年3月期)
受注高	69,986	75,672	93,618	98,073	110,482
完成工事高	73,775	74,648	86,826	98,925	110,923
経常利益	1,458	3,784	7,532	10,433	10,350
当期純利益	1,037	1,809	4,116	5,876	5,380
総資産	47,744	44,665	57,314	64,363	60,759
純資産	7,091	8,973	12,632	16,816	21,323

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成21年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成20年3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>		
流 動 資 産	44,486	49,549
現金及び預金	7,909	8,569
受取手形・完成工事未収入金	24,657	21,839
有 価 証 券	2,896	1,498
未成工事支出金	8,242	16,779
繰延税金資産	668	748
そ の 他	116	122
貸倒引当金	△ 4	△ 8
固 定 資 産	16,273	14,813
有形固定資産	10,908	10,724
無形固定資産	279	95
投資その他の資産	5,084	3,993
<b>資 産 合 計</b>	<b>60,759</b>	<b>64,363</b>

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成21年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成20年3月31日現在)
<b>負 債 の 部</b>		
流 動 負 債	38,805	46,839
固 定 負 債	630	707
<b>負 債 合 計</b>	<b>39,436</b>	<b>47,546</b>
<b>純 資 産 の 部</b>		
株 主 資 本	21,495	17,274
資 本 金	2,754	2,754
資 本 剰 余 金	1,688	1,688
利 益 剰 余 金	17,088	12,864
自 己 株 式	△ 36	△ 33
評価・換算差額等	△ 243	△ 509
その他有価証券評価差額金	△ 259	△ 502
為替換算調整勘定	15	△ 6
少数株主持分	71	51
<b>純 資 産 合 計</b>	<b>21,323</b>	<b>16,816</b>
<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>60,759</b>	<b>64,363</b>

**連結損益計算書**

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度		前連結会計年度	
	自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日	自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日	自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日	自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日
完 成 工 事 高	110,923	98,925		
完 成 工 事 原 価	97,348	85,296		
完 成 工 事 総 利 益	13,575	13,628		
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	3,040	2,999		
営 業 利 益	10,535	10,628		
営 業 外 収 益	275	317		
営 業 外 費 用	460	512		
経 常 利 益	10,350	10,433		
特 別 利 益	9	23		
特 別 損 失	865	945		
税金等調整前当期純利益	9,494	9,511		
法人税、住民税及び事業税	3,101	3,584		
法 人 税 等 調 整 額	992	28		
少 数 株 主 利 益	20	21		
当 期 純 利 益	5,380	5,876		

**連結キャッシュ・フロー計算書**

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度		前連結会計年度	
	自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日	自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日	自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日	自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,765	6,194		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,624	△ 1,880		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,621	△ 2,537		
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	△ 35		
現金及び現金同等物の増加額	537	1,740		
現金及び現金同等物期首残高	10,068	8,327		
現金及び現金同等物期末残高	10,606	10,068		

**連結株主資本等変動計算書 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)**

(単位：百万円)

項 目	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持 分	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 金 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年3月31日残高	2,754	1,688	12,864	△ 33	17,274	△ 502	△ 6	△ 509	51	16,816
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 1,155		△ 1,155			—		△ 1,155
当期純利益			5,380		5,380			—		5,380
自己株式の取得				△ 2	△ 2			—		△ 2
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					—	243	22	265	19	285
連結会計年度中の変動額合計	—	—	4,224	△ 2	4,221	243	22	265	19	4,506
平成21年3月31日残高	2,754	1,688	17,088	△ 36	21,495	△ 259	15	△ 243	71	21,323

# 単体財務諸表

## 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	(平成21年3月31日現在)	(平成20年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	43,784	48,760
固定資産	16,232	14,766
有形固定資産	10,500	10,287
無形固定資産	274	90
投資その他の資産	5,456	4,389
<b>資産合計</b>	<b>60,017</b>	<b>63,527</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	38,605	46,477
固定負債	499	559
<b>負債合計</b>	<b>39,104</b>	<b>47,037</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	21,175	16,997
資本金	2,754	2,754
資本剰余金	1,688	1,688
利益剰余金	16,767	12,587
自己株式	△ 36	△ 33
評価・換算差額等	△ 262	△ 508
その他有価証券評価差額金	△ 262	△ 508
<b>純資産合計</b>	<b>20,912</b>	<b>16,489</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>60,017</b>	<b>63,527</b>

## 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
完成工事高	108,863	95,998
完成工事原価	95,866	83,007
完成工事総利益	12,996	12,990
販売費及び一般管理費	2,790	2,731
営業利益	10,206	10,259
営業外収益	312	347
営業外費用	413	497
経常利益	10,105	10,108
特別利益	42	27
特別損失	855	945
税引前当期純利益	9,292	9,190
法人税、住民税及び事業税	2,959	3,415
法人税等調整額	997	44
当期純利益	5,335	5,731

## 株主資本等変動計算書 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

項 目	株主資本										評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		買換資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計					
平成20年3月31日残高	2,754	1,372	316	1,688	408	231	500	11,448	12,587	△ 33	16,997	△ 508	△ 508	16,489
事業年度中の変動額														
剰余金の配当					—			△ 1,155	△ 1,155		△ 1,155		—	△ 1,155
当期純利益					—			5,335	5,335		5,335		—	5,335
買換資産圧縮積立金の取崩					—	△ 11		11	—		—		—	—
自己株式の取得					—				—	△ 2	△ 2		—	△ 2
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)					—				—		—	245	245	245
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	△ 11	—	4,191	4,180	△ 2	4,177	245	245	4,422
平成21年3月31日残高	2,754	1,372	316	1,688	408	219	500	15,640	16,767	△ 36	21,175	△ 262	△ 262	20,912

## 事業のご紹介

当社は石油、石油化学、一般化学、薬品、食品などのお客様のプラント（製品製造装置）のメンテナンスから建設工事に至る幅広い業務を提供しています。

### ■ プラントメンテナンス

当社はプラントメンテナンスのエキスパートとして、長年の経験により培った技術と高度な技能により、専門性の高いメンテナンスサービスを提供し、プラントの安全で安定的な操業に貢献できるよう日々努力を重ねています。また、お客様のプラントメンテナンスに関する多様なニーズにお応えするために、「One to One Maintenance」をテーマとして、それぞれのお客様とのコミュニケーションを通じ、プラントメンテナンスに関する課題や問題点に対する改善策や解決策を提案しています。

メンテナンスにおいては、お客様のプラントの安全で安定的な操業を支えることを目的として、次のような工事を行っています。

- プラント稼働に伴い、発生する配管の補修、フィルターの清掃、回転機械の点検などの工事
- 高圧ガス保安法などの法令で定められたものを中心に定期的にプラントを停止させ、点検、補修、改造などを行う工事
- プラントの能力増強や生産性向上のための改造や老朽化による設備更新などを目的に行われる工事



### ■ プラント建設

お客様は新製品の製造や生産能力の増強などを目的として、プラントを新たに建設される場合があります。当社では中小規模のプラント建設を主体として、各種プラントの企画から基本設計、詳細設計、資機材調達、現地工事、試運転に至る機能的なプロジェクトマネジメントにより、効率的で合理的なプラント建設を実現しています。



# 中期計画のご説明

## 第3次中期計画

### Growth to the Next Stage

プラントメンテナンス業界のリーディングカンパニーとして更なる成長を目指します。

「高度な品質のメンテナンスおよびエンジニアリングの提供を通じて永続的に発展し、顧客の生産性の向上に寄与するとともに、社会の繁栄ならびに地球環境の保全に貢献する。」という経営理念のもと、平成19年4月から平成22年3月までの第3次中期計画を推進中です。

#### ■ 経営ビジョン

当社グループの事業は、「顧客プラントの安全で安定的な操業を支え、生産性の向上に貢献する付加価値の高い事業である。」という基本認識に立ち、エンジニアリング能力のあるメンテナンス企業という当社グループの特長を活かし、顧客に信頼される強力なパートナーとして、プラントメンテナンス業界のリーディングカンパニーとして成長し続けます。また、「確かな品質と安全」を確保し、新たな発想に基づく「現場改革」を推進し、「人材の強化・育成」に注力するとともに、「内部統制システム」の確実な運用を行い、企業価値の向上と経営目標の達成を図ります。

#### ■ 業績目標および財務目標

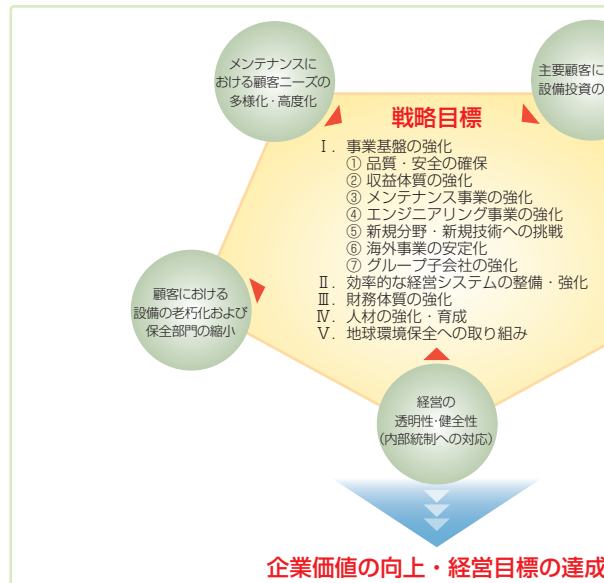
##### 連結業績目標

	平成20年3月期実績	平成21年3月期実績	平成22年3月期予想
受注高	980億円	1,104億円	1,000億円
完成工事高	989億円	1,109億円	1,000億円
経常利益	104.3億円	103.5億円	76.3億円
当期純利益	58.7億円	53.8億円	42.0億円

##### 連結財務目標（平成22年3月期目標）

- ①有利子負債：ゼロ（単体）
- ②純資産：200億円以上 ※

※平成21年3月期において、目標を達成いたしました。



## ■ 事業戦略

### I. 事業基盤の強化

#### ① 品質・安全の確保

「品質・安全」の確保を最優先課題として、顧客プラントの安全で安定的な操業と生産性の向上に貢献します。

#### ② 収益体質の強化

各事業拠点と一体となった営業施策を展開し、安定的な受注の確保を図るとともに、原価低減のための施策を実行し、コスト競争力を強化します。

#### ③ メンテナンス事業の強化

メンテナンスニーズの多様化・高度化に確実に対応できる社内体制を整備するとともに、メンテナンス事業の高付加価値化を目指して、新しい工法・省力化機械の導入、新しいマネジメント手法の確立などの「現場改革」を推進し、メンテナンス技術および施工能力の向上を図ります。

#### ④ エンジニアリング事業の強化

メンテナンスから派生する能力増強・生産性向上のための投資案件に対して、積極的な営業展開を図るとともに、エンジニアリング業務に必要な専門技術力を磨き、プロジェクト遂行能力の強化を図ります。

#### ⑤ 新規分野・新規技術への挑戦

当社グループのコア事業であるメンテナンス分野に関連した中で、新規事業の創出、成長分野への進出、新商品の開発を検討します。

#### ⑥ 海外事業の安定化

アジアを中心とした海外事業の実績を重ね、グループ会社を含めた海外事業の安定化を図ります。

#### ⑦ グループ子会社の強化

グループ子会社の収益力の向上を図り、グループ経営の基盤を強化します。

### II. 効率的な経営システムの整備・強化

内部統制システムの確実な運用を図ることにより、経営の透明性・健全性を確保するとともに、事業目的の達成に関わるリスクの低減に注力し、企業価値を高めます。

### III. 財務体質の強化

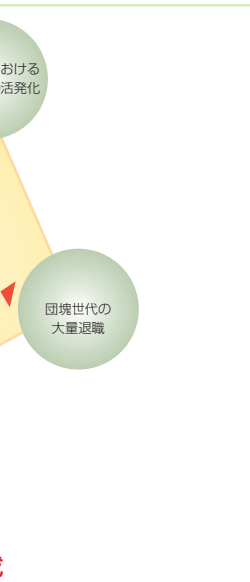
収益体質の強化を図り、自己資本を高め、引き続き有利子負債の削減に取り組み、財務体質の更なる強化を図ります。

### IV. 人材の強化・育成

社員能力のレベルアップを図るための具体的な人材の強化・育成施策を実行するとともに、活力のある職場環境を構築するため、人事諸制度の見直しを行います。

### V. 地球環境保全への取り組み

企業の社会的責任（CSR）の見地から環境問題を捉え、地球環境の保全に積極的に取り組みます。





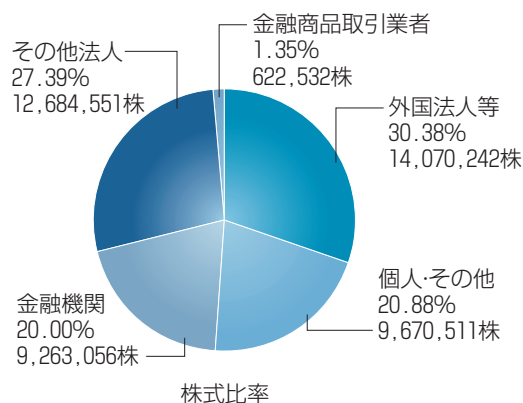
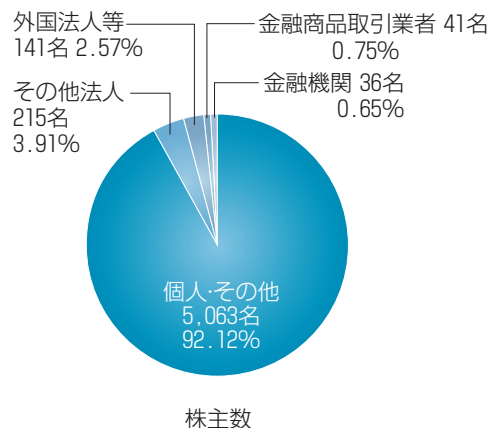
# 株式の状況 (平成21年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 160,000,000株
- 発行済株式総数 46,310,892株
- 株主数 5,496名 (前期末比 1,136名増)
- 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
新日本石油株式会社	6,100	13.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,312	7.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	1,933	4.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,727	3.74
株式会社NIPPOコーポレーション	1,500	3.24
ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー 505223	1,045	2.26
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントプリティツシユクライアント	800	1.73
新興プランテック従業員持株会	771	1.67
ルクセンブルグオフショアジャス ディックレンディングアカウント	725	1.57
土田健三	652	1.41

(注) 出資比率は、自己株式(79,141株)を控除して計算しております。

## ●所有株数別株式分布状況



## ●株主メモ

決 算 期  
定 時 株 主 総 会  
基 準 日

3月31日

6月中

定時株主総会については3月31日といたします。  
その必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

配 当 金 受 領  
株 主 確 定 日  
株 主 名 簿 管 理 人

3月31日および中間配当を実施するときは9月30日

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

( 電 話 問 い 合 わ せ )  
お よ び 郵 便 物 送 付 先 )

〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)

公 告 の 方 法

電子公告といたします。但し、電子公告による公告を  
することができない場合は、日本経済新聞に掲載する  
方法といたします。

単 元 株 式 数

100株



当社の最新情報はこちらから

<http://www.s-plantech.co.jp/>